

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人守山市文化体育振興事業団	
施 設 名	守山市市民文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	3,065	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,065	(千円)





(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルシオールAKF秋色	2019年11月17日	【大ホール】0歳児から鑑賞できるコンサート。演奏：大阪交響楽団弦楽アンサンブル他	目標値	4,000
		大ホール・小ホール他		実績値	1,733
2	第16回～18回 ルシオール音楽塾	2019年9月1日、10月20日、12月15日	講座と演奏のセット講座。講師：中村孝義、青山登志和、岡田暁生、演奏：日本センチュリー交響楽団メンバー他	目標値	450
		小ホール		実績値	325
3	中山道守山宿 旅への誘いコンサート vol.7～vol.10	2019年4月13日、6月16日、2020年1月11日、2月16日	地域資産等の紹介と演奏。出演：高田泰治、若林かをり、若林千春、イリーナ・メジャーエワ、持丸秀一郎、樋上愛加	目標値	800
		小ホール		実績値	426
4	ルシオール 街かどコンサート vol.20、21	2019年6月30日、 vol.21は中止	公民館等で開催する鑑賞無料のコンサート。出演：高橋宗久、中屋響、永松祐子、望月稔子※日本センチュリー交響楽団メンバー。	目標値	280
		市内公民館		実績値	105
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>市民ホールが行う事業のミッションを、①人間の身体的能力、知性と感性の可能性へ挑戦する優れた実演芸術を提供する、②市民が文化芸術の担い手となる、③守山に文化芸術の創造力をプロデュースし、アーティストを育てる、④守山の歴史や地域資源を活かす、⑤長期的・継続的な取組を行う、の5点とし、これに沿って守山市の文化芸術の基盤を作るための普及啓発事業として「ルシオール AKF 秋色」「ルシオール音楽塾」「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」「ルシオール街かどコンサート」の4事業を組み立て、当初予定のとおり事業を進めることができた。</p> <p>【ルシオール AKF 秋色】</p> <p>平成26年度からの継続事業で0歳児から楽しみ、クラシックコンサートのデビューの機会を提供している。音楽ワークショップの開催など、大阪交響楽団メンバーや様々なアーティストの出演により、子どもたちやファミリー層が楽しみながら実演芸術に親しめる機会を作っている。</p> <p>【ルシオール音楽塾】</p> <p>クラシック初心者の方から愛好者まで満足できる事業としている。出演者も協定を結ぶ日本センチュリー交響楽団や協力・連携をしているびわ湖ホールの声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー、関西圏を中心に活躍している奏者など、高い演奏技術による良質な音楽を届けることができた。</p> <p>【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】</p> <p>地域資源や歴史等とクラシック音楽を関連付けたコンサートにすることによって、クラシック音楽への関心を高めるとともに、地元の魅力を再認識することにつながった。また、関西圏を中心に活躍するアーティストの優れた演奏を提供することができた。</p> <p>【ルシオール街かどコンサート】</p> <p>劇場まで足を運ぶことが困難な方が在住地域で気軽に聴くことができるコンサートはニーズが高く、アンケート結果からも、継続して開催を求める声が多く聞かれた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>守山市は若い世代の割合が高く、教育・子育て環境の充実は市の重要な課題となっている。「第5次守山市総合計画」では、文化・芸術は、市民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠なものであり、文化・芸術の振興と、市の経済活動やまちづくり活動は密接に関連し合うと位置づけられている。「守山市教育行政大綱」では、1年を通して、子どもから大人まで誰もが気軽に本格的な文化・芸術に親しめる機会を設ける」と規定されている。これに基づき市民ホールにおいて、子どものための事業や実演芸術の普及啓発事業が始まることとなった。</p> <p>0歳児から鑑賞できる子どものための事業として「ルシオール AKF 秋色」、地域の公民館や図書館など身近な場所で気軽にクラシック音楽を聴ける「街かどコンサート」、知的なアプローチを望む人たちに応える「ルシオール音楽塾」、地域資源、ふるさとの文化資産等の再発見と関連づける「旅への誘いコンサート」の4つの事業で助成事業を構成し、この他に市主催で当事業団が共催する「ルシオール アート キッズ フェスティバル」では、市内文化団体や経済団体等と協働することで、市の文化的、社会的、経済的課題に応えようとしている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

入場者・参加者数に関しては、平成 31 年度の目標値 5,530 人に対して実績値 2,589 人、目標達成率 46.8% だった。

「ルシオール AKF 秋色」については、子どもたちやファミリー層に実演芸術への関心を高めることができたが、開催日が近隣の家族向けイベントと重複したこともあり、キオスク、ワークショップ、模擬店（マルシェ）の集客が大幅に減少し、目標値 4,000 人に対し実績値 1,733 人となった。

「ルシオール音楽塾」については、実演芸術に対し知的アプローチを求める人たちのニーズに応えるとともに、優れた実演を提供しようとするもので、目標値 450 人に対し実績値 325 人と参加者数は目標に達しなかったが、参加者の満足度も高い事業（アンケートでは、大変良い・良いが 77%）として定着してきている。

「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」については、関西を中心に活躍する若手中堅の奏者を起用し、ワンコインとすることで来場しやすくしている。目標値 800 人に対し実績値 426 人と参加者数は目標に達しなかったが、アンケートの大変良い・良いが 78%と入場者の評価も高い。

「ルシオール街かどコンサート」については、7 年度目となる事業で、地域に親しまれており、継続を望む声が多いが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で 1 日・2 会場の開催となり、目標値 280 人に対し実績値 105 人となった。アンケートの大変良い・良いは 79%であった。

「ルシオール音楽塾」「旅への誘いコンサート」のアンケート結果では守山市外からの来場者はそれぞれ 63%、56%で、一定広い範囲からの集客もある。

これらの結果から、地理的条件を考慮すると、守山市内にきめ細かに情報を出すことが重要であること、隣接市へは公共ホールなどの公共施設を通しての情報提供、更により広域にはクラシック・ファン向けの広報を加えることが効果的と考えられる。

また、会場が公民館等の「ルシオール街かどコンサート」、地域の歴史資産等を題材にする「旅への誘いコンサート」では関係する地区の公民館情報誌に掲載し、一定の反応が見られる。隣接市およびより広域の地域にはコンサートでのチラシ配布を中心にしながら、情報誌・紙への掲載などを行った。

「ルシオール音楽塾」「旅への誘いコンサート」「ルシオール街かどコンサート」について、60 歳以上の来場者は「ルシオール音楽塾」で 71%、「旅への誘いコンサート」で 64%、「街かどコンサート」で 67%と高齢世代が多く、若年層への浸透が今後の課題ではあるものの、当面は量的拡大を図ることが重要と考えられる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間】

市主催の音楽イベント「ルシオール アートキッズ フェスティバル」(5月)を含め、年間を通して公演時期が偏らないよう配慮している。

「ルシオール AKF 秋色」、「ルシオール音楽塾」「旅への誘いコンサート」については、当初の計画通り実施することができた。

「ルシオール街かどコンサート」については、6月開催については当初の計画通り実施できたが、3月14日に計画していた分については、出演者および公演内容の調整、広報等、開催に向けて準備をしていたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、やむを得ず中止とした。

#### 【事業費】

事業費については当初予算 8,384,000 円に対し 7,908,497 円となり△475,503 円となった。

収入について当初予算は 1,632,000 円に対し 896,500 円となり△735,500 円となった。

年間収支差額 6,752,000 円に対し、7,011,997 円となった。

今後の課題として、有料入場者数を増やし収入を増やす一層の努力が必要である。



【旅への誘いコンサート東門院の紹介】



【旅へ誘いコンサート vol.11】



【ルシオール音楽塾】

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

実演芸術において創造性を発揮するためには、優れた作品を優れた演奏で提供することが基礎となる。実演家の起用に当たっては、日帰り圏からが望ましいという現実的な事情も含め、特に関西圏での創造力の蓄積に寄与できることを考慮している。このため、関西圏で活躍する若手・中堅の演奏家を基本に、プロデューサーが事前に実演で確認することを原則に優秀な人材の起用に努めている。

オーケストラについては、日本センチュリー交響楽団と協力協定を結び、「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」でのアンサンブル公演への出演により、オーケストラの団員個人が能力を発揮する場を設け、聴衆にも団員個人に注目できる機会をつくっている。オーケストラ全体の公演機会については、守山市が主催し当事業団が共催する音楽イベント「ルシオール アート キッズ フェスティバル」で設けている。

また、滋賀県ではびわ湖ホールによるオペラ制作が実演芸術の創造活動の中心であり、びわ湖ホール声楽アンサンブルは関西での声楽家育成の重要な団体となっていることから、OB・OGであるソロ登録メンバーの中から、上記助成事業に数人ずつ優れた人材を起用している。びわ湖ホール声楽アンサンブル全体としては、「ルシオール アート キッズ フェスティバル」での公演機会を設けている。また、守山市が主催する小学生を対象とする鑑賞事業でも、今年度、市民ホールでオペラ「森は生きている」を上演している。これらを通して、びわ湖ホール声楽アンサンブルが育てた人材を更に飛躍させる機会とすることができた。

また、地方都市においては、日常的にクラシック音楽の実演に接する機会が少ないことから、自分たちには縁がないものと敬遠する傾向が見られる。このため、コンサートでの奏者のトーク、講師の解説、判りやすい基礎的な曲目解説の掲載のほか、「旅への誘いコンサート」では、最初の10分間で、演奏される曲目と何らかの関連のある地域の歴史資産や自然を取り上げ、市民の日常と関連づけるようにしている。これはアンケートでも好意的な反応が多く見られた。

演奏曲目については、耳なじみのある親しみやすい曲と傑作と言えるような本格的な作品の両方を取り上げるようにしている。リストの「巡礼の年（全3年）」の3か年での全曲演奏（平成31年度は「第3年」）、ドヴォルザークのピアノ五重奏曲 イ長調 Op.81、プッチーニの歌劇「ラ・ボエーム」ハイライトなど音楽史上重要な作品を積極的に取り上げ、本格的なクラシック・ファンの注目も集められるようにしているが、学識経験のある講師による解説、あるいはプログラムに掲載する曲目解説により、初心者にも判りやすくなるよう努めた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

守山市は、中山道守山宿の歴史に代表されるように歴史遺産にも恵まれ、また、守山市文化協会をはじめとする市内文化団体の活発な活動など、文化振興の土壌は豊かである。しかし、気軽なエンターテインメントがあふれ、テレビやウェブ上でも情報が氾濫している昨今では、高度な修練を介して、精神を集中させるなかで新たな価値を創ろうとする実演芸術の場が敬遠されるという傾向も見られる。

市内には一定の熱心な、いわゆるクラシック・ファンの存在が認められるが、更にこれを広げていくには、コンサートという音楽の場を多様なかたちにし、聴衆の側からの様々なアプローチが可能なものにする必要がある。

「ルシオール街かどコンサート」では、公民館のような身近な場所を会場にしており、演奏者との距離が数メートルという空間での新しい音楽体験の場が設定できた。演奏者の自己紹介や曲の解説なども、聴衆に新鮮な刺激を与えることができた。

「ルシオール音楽塾」は、実演に加えて、音楽学者や評論家などが解説をすることで、音楽を幅広い視点から捉えることに資するとともに、「質問コーナー」のような聴衆と講師、演奏者との双方向性のあるセッションはアンケートなどでも好評を得た。

特に、プッチーニの歌劇『ラ・ボエーム』を取り上げた回については、3週間後に地元の守山音楽連盟による同じ『ラ・ボエーム』の公演があり、歌手も1名が双方の公演に共通して出演することもあったことから、「ルシオール音楽塾」公演の際での紹介およびチラシ配布を行い、相互に関心を高めるとともに、地域での盛り上がりにつなげることができた。

「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」では、演奏される音楽に関連づけた歴史遺産や自然をテーマに取り上げ、演奏の前に地元の関係者が紹介をしている。クラシック音楽に関心のなかった関係者も来場しており、幅広く関心を喚起することに役立った。

そして、「ルシオール AKF 秋色」では、多様な音楽や芸術に子どもの時から先入観なしに触れられる機会をつくることができた。

また、令和2年度からは新規事業として、上り坂の若い演奏家によるリサイタルシリーズを予定しているが、未だ知名度は高くなくとも、エネルギー溢れる若い音楽がダイレクトに伝わり、聴衆が自由な判断力と批判精神で評価する機会になることを期待している。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

「守山市文化振興アクションプラン（平成 26 年度策定）」において、守山市民ホールは市の文化振興の中核施設として位置づけられ、それにふさわしい事業に取り組むとともに、その過程で組織体制としてはプロデューサー（非常勤）とディレクター（常勤）を置くこととされた。平成 26 年度からはプロデューサー（非常勤）が、平成 28 年度からはディレクターに相当するプロパー職員が置かれている。当該プロパー職員については、2 か月間びわ湖ホールに研修派遣し専門職員としての資質を磨き、その後助成事業を始めとするアートマネジメントを担当している。「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」などの助成事業も、上記アクションプランに基づき始まった事業である。平成 31 年度は若手人材育成の取り組みとして、クラシック経験者の舞台技術員（新卒）を有期契約職員として採用した。

また、助成事業の執行を通じて、びわ湖ホールや日本センチュリー交響楽団とのネットワークの形成、情報やノウハウの交換ができています。また、守山市が主催で当事業団が共催する音楽イベント「ルシオール アート キッズ フェスティバル」を市や文化団体、経済団体と協力して毎年開催しており、音楽公演の企画や運営については当財団が担当し実施している。助成事業と併せて、守山市の文化振興を牽引する事業となっている。

これら助成事業を中心とした主催・共催事業については、その結果を組織内部で評価し、見直し、改善、広報への反映など、次年度に向けて PDCA サイクルを回すこととし、自主事業検討会議（年 2 回開催）、事業団の経営会議（毎月開催）や各施設のグループリーダーによる会議（毎月開催）で評価、検討を行っている。

守山市との指定管理契約については、前期（平成 26 年度～30 年度・非公募）に引き続き、これまでの運営管理に対する市の積極的な評価のもとに、（公財）守山市文化体育振興事業団が平成 31 年度～令和 5 年度も非公募で継続して受託することとなった。事業団としては、中期経営計画（平成 29 年度～平成 33 年度）を定め、計画的に事業を推進している。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行により、2 月以降の主催・共催事業・貸館の中止を余儀なくされたが、令和 2 年度も中止は続き、当事業団の経営にも影響が大きくなっている。